

## 情熱を燃やし続ける永遠の野球少年たち

# 群馬県還暦野球連盟

前橋市



人気の高いスポーツ、野球。60歳を超えても還暦野球チームで活躍する彼らは、練習に汗を流し、試合に全力を尽くす。勝利を目指す選手たちの表情は、実に生き生きとしている。



この笑顔！野球が好きでたまらない野球少年に戻る瞬間



完投したピッチャーと力強く握手を交わす

### ●活動内容

群馬県還暦野球連盟主催で、県内では1年間に5つの大会が開催される。4月の県民スポーツ祭群馬県還暦軟式野球大会をはじめとして、10月の前橋市長杯まで、還暦・古希野球大会が開催され、県内の各チームが参加している。上位入賞チームは、関東大会や全国大会などに出場できるため、どのチームも上位を目指して白熱した戦いが繰り広げられる。

小さい頃から野球少年だった人が多く、高校の先輩後輩、会社の仲間、元実業団選手や元プロ選手など経歴はさまざまだが、共通することは皆野球が大好きなことだ。

理事長の小川利男さん(77)は、チームに所属し、大会の運営にも尽力してきた。雨による試合順延の決定や連絡、選手の健康面を気にかけ、常に心を配っている。「勝った、負けたで一杯飲むのが楽しみなんです。自分から野球を取ったら何もなくなってしまふほど、野球は全て。今までたくさんの還暦野球チームと戦ってきたおかげで、良い友人がたくさんできました」と、うれしそうに話してくれた。

### ●事業を始めたきっかけ

故清水一郎元県知事が「スポーツ県群馬」を宣言し、昭和54年、知事の提唱により県内で初めての還暦野球チーム「前橋還暦ボーイズ」が誕生。昭和56年には全国で初めて群馬県還暦野球連盟が組織され、第1回群馬県還暦軟式野球大会が開催された。

群馬県に還暦野球連盟ができたことをきっかけとし、全国に還暦野球が広まり、昭和60年には、発祥の地である群馬県で、第1回全日本還暦軟式野球大会が開催された。以降、全国各地で毎年開催されている。

本県では平成26年現在、還暦(60~69歳)、古希(70~74歳)、グランド古希(75~79歳)、傘寿(80歳以上)合わせて104チームが連盟に登録されており、チーム数は全国の都道府県で一番多く、群馬県の野球人気の高さがうかがえる。還暦野球の前には壮年(40~49歳)、熟年(50~59歳)チームがあり、群馬県は何歳になっても野球ができる環境が整っている。

連盟の会則には「野球を通して会員相互の親睦を深め、あわせて健康の保持増進を図ること」とあり、楽しみながら、いつまでも健康でいられるようにとの思いが込められている。



シニアとは思えない力強いスイング

### ●工夫している点・特長

平成18年の大会からチームの戦力、レベルを考慮して、トーナメントで対戦するチーム力の差がでないように、振り分けを工夫している。

9月上旬、「秋季古希軟式野球大会」の球場では、70歳を超えているとは思えないほど軽やかなプレーが続出。勝利を目指し全力で戦う姿が印象的だ。

当日参加していた西毛安中クラブ監督の信澤貞夫さんは「10歳から70年野球を続けられたのは、健康であり、野球が好きだから。戦後の何もない時でも、道具を自分で作って、仲間と野球をしていました。今では、3



左から事務局長小林さん、前会長矢野さん、理事長小川さん

歳頃から野球を教えた高校生の孫二人が、バッテリーを組んでいます」と話す。

また、前会長の矢野次郎さんは、理事長や会長を長く務め、連盟の発展に大きく貢献してきた。「町おこし、村おこしの意味で、皆さんと心を合わせて日本を立派な国にしなければと、スポーツの普及を始めました。青春時代は戦争だったので、青春を取り返すべく、野球に情熱をかけています」。90歳を超える現在も球場にユニホーム姿で颯爽と現れる。シニアの力が継続され、活かされているのが、還暦野球連盟だ。



### 〈やりがい・楽しみ〉

鬼石古希ミカクラブのキャプテン新井孝治さんは「伝統あるチームで野球をやるのが夢で、憧れのチームでプレーできて幸せです」。

鎗(かぶら)古希クラブのピッチャー、岩井善四郎さんは「今日は最後まで投げ切った。これだけの仲

間と野球できて幸せです」。

同じチームの監督、田貝和昭さんは「妻も健康だからこそ野球に打ち込める。妻の力も大きい。言葉には出さないが皆も奥さんには感謝しているでしょう」と、大変充実した様子だった。

### 基礎データ

☎027-252-9327

群馬県還暦野球連盟

事業開始時期／

昭和56年

主な活動／

各種野球大会の運営

人数・年齢／

登録チーム数104

60~90代

